



火災前(平成31年1月6日)

令和6年度事業概要

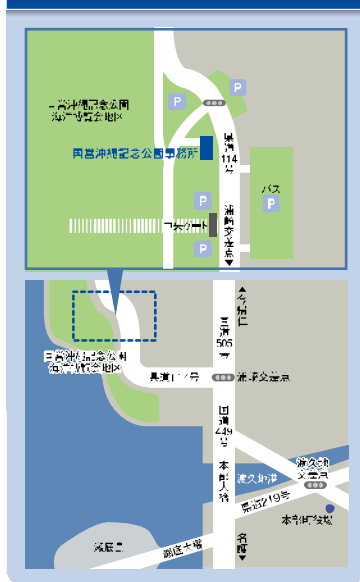
国営沖縄記念公園 首里城地区

# 首里城公園

内閣府沖縄総合事務局  
国営沖縄記念公園事務所



## 国営沖縄記念公園事務所 所在地



## 首里出張所 所在地



東のアザナより葉屋根を望む

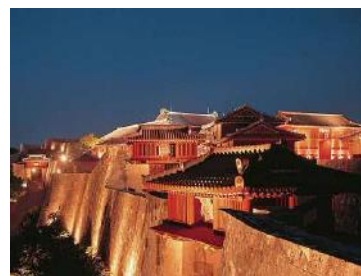
### 内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所

〒905-0006 沖縄県那覇市御幸町字川4-4番地  
TEL.0980-48-3140 FAX.0980-48-2793  
<http://www.oki-park.jp/kouen/>

### 首里出張所

〒900-0812 沖縄県那覇市首里当麻町3丁目1番地  
TEL.098-886-3161 FAX.098-886-3154

国営沖縄記念公園 Official Site  
<http://oki-park.jp/>



首里城公園のライトアップ



# 歴史的風土の探訪

貴重な国民の文化遺産を回復する目的で復元された首里城は、新たな県民文化の創出と伝統技術の継承・発展を図り、歴史的風土探訪の場として、整備を行っています。

復元整備については、正殿等の復元根拠資料が存在する18世紀以降の首里城をモデルとしています。



新春の夏



中秋の夏

## 首里城公園の概要

位置：沖縄県那覇市首里宮蔵町  
都市計画決定面積 / 4.7ha (開園面積4.0ha)  
着工年度：昭和61年度  
供用開始：平成4年度

## 基本方針

- 1 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う
- 2 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る
- 3 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る
- 4 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す

## 琉球王国とは

今から約590年前(1429)に成立し、約140年前(1879)までの間、約450年間にわたり、日本の南西諸島に存在した王制の国が琉球王国です。

琉球諸島には、日本の鎌倉時代に当たる12世紀頃から各地に「按司」と呼ばれる豪族が現れ、互いに抗争と和解を繰り返しながら次第に整理淘汰され、やがて1429年尚巴志が主要な按司を統括し、はじめて統一権力を確立しました。

これが琉球王国の始まりでした。その後、琉球王国では独自の国家的な一体化が進み、中国をはじめ日本、朝鮮、東南アジア諸国との外交・貿易を通して海洋王国へと発展していきました。

琉球王国時代、首里城は国王とその家族が居住する「王宮」であると同時に、王国統治の行政機関「首里王府」の本部でもあり、また各地に配置された神女たちを通じて、王国祭祀を運営する宗教上のネットワークの拠点でもありました。また、首里城とその周辺では芸能・音楽が盛んに演じられ、

美術・工芸の専門家が数多く活躍しており、首里城は文化芸術の中心でもありました。

1609年に日本の薩摩藩が琉球王国に侵攻して首里城を占拠しました。それ以降270年間にわたり、琉球王国は、中国との冊封体制を続けながら、薩摩藩と徳川幕府の従属下にありましたが、このような微妙な国際関係の中で琉球王国は存続していきました。

しかし、やがて明治維新により成立した日本政府は、1879年(明治12)軍隊を派遣し首里城から国王尚泰を追放し、沖縄県の設置を宣言しました。

ここにおいて、琉球王国は滅亡しました。

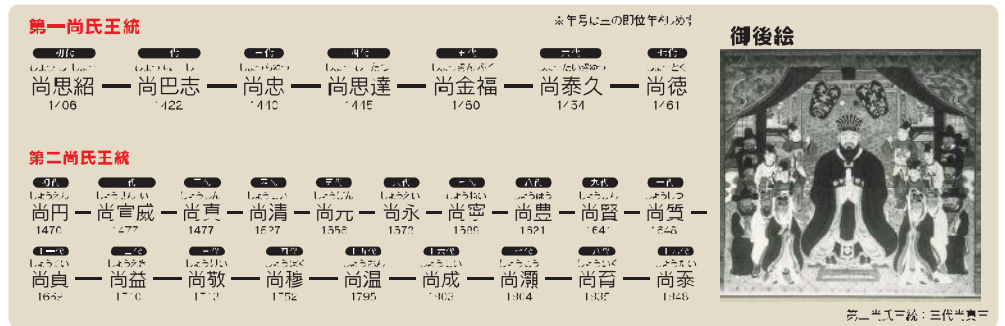


1984以降の首里城(再建資料)

## 首里城の歴史

中国	三山時代	1372 中山に家臣、あめりかに使者を送る
日本	琉球	406 尚思紹(尚忠の父)が中山に赴く
		427 尚思紹の死、尚忠が即位
		429 尚巴志、中山を襲撃、琉球王位が及び
	第一尚氏	453 「志略・布告の巻」が記述する首里城全貌
		458 方国事案の制定に繋がる
		1470 首里、王府につく。原家門を創始
		1471~1526 歓会門、久慶門を創始する
		1494 中城寺を創建
		1501 龍泉寺
		1502 中城寺に「有財天宮」創建
		1508 正殿(首里城の中心)を創建する(築城開始)
		1519 尚巴志が尚思紹の跡を継ぐ
		1527~55 この頃、首里(中城)門を創始
		1546 首里城の築城と中山、麓川を築く
		1609 王府に入る琉球使節
		1621~27 南殿、中門
		1660 首里城焼失
		1672 首里城再建
		1682 中城(龍泉寺)を再建、龍泉寺に置く
		1700 首里城焼失
		1712 首里城再建(15年間に完了)
		1729 正殿の再建(中央に移す)、城壁、宮内
		1753 空襲、中城(龍泉寺)を再建
		1768 正殿の大修理が行われる
		1799 城名図が完成される
		1853 ペリー一行来航、首里城訪問
		1872 琉球修政
		1879 首里城を再建し、琉球王国の歴史
		1925 首里城(中城)門に指定される
		1933 歓会門、龍泉寺、中城門、山家に指定される
		1945 琉球再建により首里城焼失
		1957 中城(龍泉寺)を再建
		1968 中城(龍泉寺)を再建
		1972 中城(龍泉寺)を再建
		1974 歓会門、龍泉寺
		1977 中城(龍泉寺)を再建
		1984 久松門、龍泉寺
		1989 首里城(中城)門を再建
		1992 首里城(中城)門を再建
		2000 北城(中城)門を再建
		2003 首里城(中城)門を再建
		2007 中城(龍泉寺)を再建
		2008 中城(龍泉寺)を再建
		2009 中城(龍泉寺)を再建
		2010 中城(龍泉寺)を再建
		2011 中城(龍泉寺)を再建
		2016 中城(龍泉寺)を再建
		2017 中城(龍泉寺)を再建
		2019 中城(龍泉寺)を再建
		2020 中城(龍泉寺)を再建
		2022 中城(龍泉寺)を再建

## 歴代王統図



## 琉球王国滅亡後の首里城

1879年(明治12)春、首里城から国王が追放され「沖縄県」となった後、首里城は日本軍の駐屯地、各種の学校等に使われました。1930年代に大規模な修理が行われましたが、1945年の沖縄戦でアメリカ軍の攻撃により跡形もなく消滅しました。戦後、首里城跡地は琉球大学のキャンパスとなりましたが、大学移転後に首里城復元事業が推進され現在に至っています。

## 首里城復元整備の基本方針

首里城復元整備における公園計画の基本方針を以下のように設定しています。

- 1 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。
  - 首里の歴史的環境の重要な拠点として、首里杜構想との整合性に配慮する。
  - かつての首里城の地形、植生、各種構造物によって構成されている歴史的風致に配慮した施設計画を行う。
  - 県営公園区域と一体となった公園計画を図る。
- 2 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。
  - 沖縄の優れた建造物(木造建築、石造建築、彫刻)の再生によって国家的文化遺産として広く公開し、これを末永く継承していく。
  - 首里城を沖縄県民の愛憎や誇りの対象とし、共有財産として守り育む。
  - 首里城の持つ歴史性や存在意義を通して、沖縄の歴史や文化を広く国民に知らしめ、今後の沖縄の発展を考えるよすがとする。
  - 沖縄の伝統文化の継承・発展、新たな文化の創造・学習の場ともなり得る施設整備を図る。
- 3 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。
  - 沖縄の伝統・文化及び王朝時代の状況を表示・発表する。
  - 沖縄固有の歴史・文化にかかわる行事、祭事、芸能等について積極的に導入を図り、多様で変化に富んだ利用運営を図る。
  - 運営管理については、地元住民の利用に配慮しつつ適正かつ効果的な公園管理を図る。
  - 県営公園区域と一体となった公園管理を行うよう配慮する。
- 4 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。
  - 国際交流の一助を担える施設内容を検討する。
  - 沖縄固有の歴史・文化、琉球王朝の往時の状況を表示、発表するなど沖縄の歴史・文化の理解に役立つ施設内容とする。

## 首里城復元整備の意義

沖縄は、わが国の古い伝統の上に中国及び東南アジア諸国との活発な交流を通じて外来文化を学ぶとともに、自らの価値基準に立脚した独自の文化を発展させてきました。その歴史・文化の示す世界は、わが国の南の島々で展開された「もう一つの日本文化」であり、それはわが国の歴史文化の枠組みを拡大し、より豊かに内容を秘めています。首里城は、伝統的な文化を基礎に置き、日本や中国の建築様式を巧みに摂取して造営された城郭であり、彫刻や彩色と建築が調和し、また城壁の石組みにも独自の造形と高度な技術が発揮されており、琉球王国時代の建築文化の粋を集めたものでした。このようなことから首里城の復元整備を行う意義の要旨としては

- 1 貴重な国民文化遺産の回復
- 2 新たな県民文化の創出
- 3 伝統技術の継承と発展
- 4 歴史的風土探訪の場の形成

## 公園整備の経緯

被災文化財の復元については、昭和32年より事業が始まり、守礼門、歓会門などの復元が沖縄県によって進められました。昭和52年から琉球大学の移転開始に伴い、跡地利用計画が検討される中、第二次沖縄復興開発計画において首里城一帯の整備が提言され、さらに昭和59年には沖縄県が首里城復元整備の指針となる「首里城公園基本計画」を策定しました。

昭和61年には首里城公園計画区域約18haのうち、城郭内約4haを沖縄復興を記念する国の都市公園整備事業(国営沖縄記念公園首里城地区)で復元整備することが閣議決定され、併せて城郭外側の区域約14haを県営の都市公園事業(外城郭は首里城城郭等復元整備事業(S47~H13))として整備することになりました。

こうして、平成4年11月3日に正殿等を含む主要建物を一部開園しました。平成12年12月には史跡「首里城跡」は「琉球王国のグスク及び関連遺跡群」のなかの一つとして「世界遺産」に登録されました。しかし、令和元年10月31日未明に発生した火災により正殿等9つの施設が焼失しました。

## 首里城復元整備の歩み

年代	事項
昭和33	守礼門復元修理工事竣工。
昭和43	円覚寺総門復元工事、并財天堂復元修理工事竣工。
昭和44	天女橋修理工事竣工。
昭和45	琉球政府文化財保護委員会が、首里城跡及び周辺の戦災文化財の復元計画を策定。 日本政府は、第一次沖繩復帰対策要項を閣議決定し、戦災文化財などの復元修理を推進することを明らかにする。
昭和46	総理府沖繩北方対策庁予算の中で、戦災文化財復元調査費が計上される。
昭和47	第一次沖繩復興開発計画で、戦災文化財の復元を積極的に推進することを明記。 首里城歓会門の整備に着手。
昭和48	玉陵復元修理工事着手。 「首里城復元期成会」が結成される。
昭和49	首里城歓会門復元工事竣工。
昭和51	首里城久慶門の整備に着手。 玉陵復元修理工事竣工。
昭和53	那覇市総合計画の中で史跡の復元・保存がうたわれ、首里城周辺を公園緑地整備の一環として総合公園化する構想が立案される。 那覇市により「首里城跡周辺整備基本構想調査」が実施される。
昭和54	那覇市により「琉大跡地利用基本計画調査」が実施される。
昭和57	沖縄県より琉球大学跡地利用の計画がまとまる。 第二次沖繩復興開発計画の中で、「首里城跡一帯の歴史的風土を生かしつつ、公園としてふさわしい範囲について整備を検討すること」が位置付けられる。
昭和59	那覇市より「首里金城地区歴史的地区環境整備基本計画調査」が実施される。 首里城久慶門内側の整備に着手。 岡比屏武御嶽石門保存修理工事竣工。
昭和60	沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定。
昭和60	昭和60年度政府予算に首里城正殿等基礎調査費が計上される。
昭和61	沖縄県が「首里城公園整備計画調査」を策定。 国営公園区域について「国営沖繩記念公園首里地区(仮称)」として事業着手。 「国営沖繩記念公園首里城地区」として、首里城跡約4haの整備が閣議決定。 国営公園予定地の周辺を、県営公園とすることで庁議決定。 那覇市により、史跡「龍沖及びその周辺の保存整備計画調査」が実施される。
昭和62	首里城公園(17.8ha)が都市計画決定される。
昭和63	首里城正殿の設計が完了。
平成元	07.18 首里城正殿建築工事に事業着手。 11.03 首里城正殿建築工事の起工式及び木曳式を実施。
平成2	首里社館建設工事に着手。
平成3	龍潭浚渫工事に着手。

年代	事項
平成4	首里城地区一部閉園(供用面積1.7ha)。 正殿、瑞泉門、漏刻門、広福門が完成。 奉神門、南殿・番所、北殿、御庭が完成。
平成7	03.15 入園者500万人達成。
平成9	09.01 歓会門、久慶門内側周辺供用(0.1ha追加)。 12.24 首里森御獄完成。 12.24 入園者1,000万人達成。
平成10	継世門完成。
平成11	白銀門完成。
平成12	二階御殿完成。系図座・用物座完成。 供厚(万国津梁の鐘)完成。日影台完成。 西のアザナ展望デッキ完成。
06.02	入園者1,500万人達成。 右掖門完成。
07.22	九州・沖縄サミットの社交夕食会が首里城で行われた。
12.02	首里城跡の世界遺産登録。
平成14	11.01 入園者2,000万人達成。
平成15	10.04 京の内供用(0.7ha追加)。
平成18	10.26 入園者3,000万人達成。
平成19	01.27 書院・鎖之間供用(0.1ha追加)。
平成20	08.01 書院・鎖之間庭園供用(0.1ha追加)。
平成21	07.23 書院・鎖之間庭園が名勝に指定される。(文部科学省告示)
平成22	04.01 淑順門供用(0.1ha追加)。 12.05 入園者4,000万人達成。
平成26	01.24 黄金御殿・寄瀨・近習詰所、奥書院供用。 04.01 奥書院庭園供用(0.1ha追加)。
平成27	04.25 入園者5,000万人達成。
平成28	03.28 銭蔵跡、廊・係員詰所跡供用(0.3ha追加)。
平成29	03.31 北城郭園路広場供用(0.4ha追加)。
平成30	12.16 入園者6,000万人達成。
平成31	02.01 国営沖繩記念公園首里城地区 全エリア閉園(1.1ha追加・供用面積4.7ha)。 令和元 東のアザナ、白銀門、二階御殿、供用。 10.31 首里城正殿等焼失、有料区域閉園。 正殿等解体・撤去作業着手・完了。 10.31 首里城復興展示室等オープン。
令和2	06.12 世訥殿、女官居室、後之御庭、美福門 供用。 10.31 首里城復興展示室等オープン。
令和3	10.27 北殿北側見学通路供用。
令和4	11.03 正殿復元整備工事の起工式を実施。 11.22 首里城復元における技術継承・人材育成に係る連携協定締結。
令和5	08.26 素屋根見学エリアオープン。 ※赤：国が整備を実施 青：国以外が整備を実施

## 既に整備した施設

名称	供用年月日	施設概要
せいぎん 正殿	平成4.11.3	木造753階建 建築面積約637㎡ 延床面積約1,199㎡ 棟高約15.6m
くわふくもん 広福門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約166㎡ 延床面積約156㎡ 棟高約9m
ろうまくら 漏刻門	平成4.11.3	木造平屋建 建築面積約22㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約3m
すいしんもん 瑞泉門	平成4.11.3	木造平屋建 建築面積約20㎡ 延床面積約19㎡ 棟高約3m
しもやうてい 下之御庭	平成4.11.3	面積1,771㎡
すいしん 首里森御獄	平成9.2.24	石造(琉球石灰岩)あいかた積み 48.5m 石積内の植物がジュマルやクロツグ
かいざい 系図座・用物座	平成12.3.31	木造平屋建 建築面積約207㎡ 延床面積約188㎡ 棟高約7m
ともや 供屋	平成12.3.31	木造平屋建 建築面積約20㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約4m
ひかげたい 日影台	平成12.3.31	口射す新組間に設置されていた 水筒計の箱約4個の道具として使われた。
さい 西のアザナ	平成12.3.31	展望デッキ 180㎡(ユニバーサル対応)
みぎのて 右掖門	平成12.6.20	木造平屋建 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m
みやうの内 京の内	平成15.0.4	面積7,498㎡
しんいん 書院・鎖之間	平成19.1.27	木造平屋建(地下部RC造)1棟 建築面積約440㎡ 延床面積約621㎡ 棟高約8m
しんいん 書院・鎖之間庭園	平成20.4.1	面積801㎡
しゆいん 淑順門	平成22.4.1	木造平屋建 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m
くわんじゆん 黄金御殿・寄瀨・近習詰所	平成26.1.24	RC造一部木造2階建(外観木造) 建築面積約304㎡ 延床面積約99㎡ 棟高約10m
おくしん 奥書院	平成26.1.24	木造平屋建 建築面積約64㎡ 延床面積約57㎡ 棟高約5m
おくしん 奥書院庭園	平成26.4.1	面積70㎡
せんざい 銭蔵跡	平成28.3.28	鉄骨造平屋建 建築面積約183㎡ 延床面積約182㎡ 棟高約3m 体系系として整備
あづな 東のアザナ	平成31.2.1	首里城の東側に位置し、眺望の優れた場所である。往時は、傘や旗を用いて城内への時刻伝達の後方も担っていた。
しろぎんもん 白銀門	平成31.2.1	玉王死去の象徴を象徴する慶陽殿があり、その上門が白銀門である。別名「しろがね門」とも呼ばれる。
にせうてい 二階御殿	平成31.2.1	1階鉄筋コンクリート造(外観木造) 2階木造 建築面積約269㎡ 延床面積約429㎡ 棟高約9m
よこてい 世訥殿	平成31.2.1	木造平屋建 建築面積約183㎡ 延床面積約182㎡
おんなのむら 女官居室	平成31.2.1	炊爨2棟建 建築面積約123㎡ 延床面積約188㎡
のちのてい 後之御庭	平成31.2.1	面積120㎡
うつくし 美福門	平成31.2.1	木造平屋建 建築面積約24㎡ 延床面積約23㎡ 棟高約3m

## 都市再生機構が整備した施設

施設概要	復元又は 閉園年月日	施設概要
ほくでん 北殿	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約532㎡ 延床面積約467㎡ 棟高約9m
なんぐう 南殿・番所	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約448㎡ 延床面積約609㎡ 棟高約11m
ほうしんもん 奉神門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約502㎡ 延床面積約5,113㎡ 棟高約10m
ごうてい 御庭	平成4.11.3	面積約2,867㎡

    ：令和元年10月31日に焼失した施設
     ：令和元年10月31日に一部焼失した施設

## 首里城はその役割から、大きく3つの空間で構成されていました。



### ①【政治・行政空間】(表の世界)

正殿の西側の範囲で、最も中心となる儀式が執り行われる御庭を取り囲むように奉神門や南殿・番所、北殿が建っており、政治や外交が行われた。さらに広福門や系図座・用物座などの行政施設がありました。

### ②【祭祀空間】

信仰上の聖域が点在する城内で最も神聖な聖地「京の内」は、首里城発祥に関わる場所で、重要な御嶽(うたぎ)が存在した。間得大君(きこえおおきみ)を中心に神女たちが信仰や祭祀を行いました。

### ③【生活・儀礼空間】(奥の世界)

「御内原(おうちばら)」と呼ばれるエリアで、国王やその家族及びそれに仕える多くの女官たちが生活する場所であり、王族を除いて男子禁制となっていた。ここは王妃を頂点とした女官組織のもと、儀礼の場として多くの建物がありました。

# 事業の内容

## 首里城の復元・復興

首里城地区においては、平成元年より復元工事に着手し、平成31年2月に御内原エリア、東のアザナエリア等、1.1haの区域を開園し、全てのエリアを開園しました。

しかし、令和元年10月31日未明に発生した火災により、正殿等9つの施設が焼失又は一部焼失し、政府は「首里城復元に向けた基本的な方針」を決定しました。これを受け、当事務所では、地元関係者や関係機関、有識者の方々とともに首里城の復元に向けて取り組んでいます。

首里城復元に向け、破損瓦等の撤去や建物解体を実施し、正殿を皮切りとした「首里城復元」、素屋根見学エリア等からの復元工事の公開を中心とする「段階的公開」、これらの取組を通した「地域振興・観光振興への貢献」の13本柱を推進しています。

## 首里城復元に向けた「13本柱」

### 首里城復元

令和4年の着工、令和8年の完成を目指す正殿の復元や、その後の北殿・南殿等の復元に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、技術的な検討を行い、復元工事を実施します。

### 段階的公開

首里城復元に向けて進む破損瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の過程を、安全性を確保しながら現地一般公開するとともに、様々な情報発信を通して、復元の様子を伝えます。

### 地域振興・観光振興への貢献

首里城復元の段階的公開、復興ボランティア活動や特別公開イベントを通して、沖縄の地域振興・観光振興への貢献に努めます。

## 首里城復元に向けた技術検討委員会

首里城復元に向けた技術的な検討を行うことを目的に、沖縄総合事務局において令和元年12月27日より「首里城復元に向けた技術検討委員会」を設置し、正殿等の復元に向けて防災、木材・瓦類、彩色・彫刻等に係る検討を進めています。

- 〈委員(敬称略)〉 ○委員長 ●副委員長
- 高良 倉吉 琉球大学名誉教授
  - 安里 進 沖縄県立芸術大学名誉教授(令和5年4月31日まで)
  - 森 達也 沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授(令和5年4月1日より)
  - 伊従 勉 京都大学名誉教授
  - 小倉 暢之 琉球大学名誉教授
  - 関澤 愛 NPO法人日本防火技術者協会 理事長
  - 田名 真之 前沖縄県立博物館・美術館館長
  - 長谷貝 雄二 早稲田大学名誉教授
  - 波照間 永吉 沖縄県立芸術大学名誉教授
  - 室瀬 和英 漆芸家、重要無形文化財「蒔絵」保持者
  - 浦井 史郎 東京都市大学特別教授

令和元年度に「首里城正殿等の復元の行程表策定に向けた技術的検討に関する報告」をとりまとめ、以降、新たな知見をふまえた久志間切弁柄の塗装仕様の確定など、正殿復元に必要な技術的検討を深化させました。令和5年度は、各個別施設(北殿等)の復元順序の考え方を検討し、「正殿復元以降の首里城復元に向けた技術検討取りまとめ」を策定しました。



肩成風(正殿2階正面)取付作業の様子(令和6年5月)

## 首里城正殿等の復元に向けた工程表

技術検討委員会においてとりまとめ「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討に関する報告」(令和元年3月17日)も踏まえ、政府において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(令和2年3月27日首里城復元のための関係閣僚会議)を決定しました。

【令和2年3月27日 首里城正殿等の復元に向けた工程表(一部抜粋)】

- 基本的な考え方**  
前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達状況の変化等の反映の観点から、防火対策の強化及び材料調達状況の変化等の反映の観点を踏まえ工程を定めることとします。
- 技術的課題に関する方針**
  - 防火対策の強化
    - 再発防止策の徹底
    - 火災の早期発見と迅速な初期消火の徹底
    - 消防隊による消火活動の容易化
    - 消火のための水源の確保
    - 世界遺産の構成資産である首里城跡の保護
  - 材料調達状況の変化等の反映
    - 木材の調達
    - 漆の調達
    - 沖縄独特の赤瓦の製造・施工

### 首里城正殿等の復元に向けたスケジュール (年度)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降
正殿	材料調達(大径材)	市場調査							
	設計	基本設計	実施設計						
	材料調達(大径材)		試験・熟練						
工事	仮設足場がきき撤去								
		仮設足場がきき撤去	木材倉庫	発注手続(WTO)	本工工事				
北殿・南殿等		仮設	正殿復元の作業ヤードとして仮設						
		検討						工事	

## 首里城正殿の復元

令和3年度は、これまでの技術検討委員会での検討結果等を踏まえて正殿の実施設計を行い、令和4年度には、本工事に着手いたしました。

### ○建築概要

構造形式	木造重葺3階建て、入母屋造、本瓦葺
建築面積	636,56㎡
延べ面積	1199,24㎡ (1階516,86㎡、2階516,86㎡、3階165,52㎡)

### ○設計の主なポイント

- 〈防火対策について〉
- 技術検討委員会で取りまとめられた「首里城正殿の防火対策(案)」を踏まえ、当該対策に示された防災・防火設備の設置等を行います。
  - 設計にあたっては、「同委員会でもりとめられた「正殿の防火対策における歴史的空間・景観への配慮についての考え方」に示された配慮事項を踏まえることとします。

### 〈構造安全性の確保について〉

- 前回復元時の架橋を踏襲することを基本とした上で、必要な構造安全性を確保するため、正殿の必要な箇所に構造補強を行います。
- 構造補強にあたっては、「重要文化財(建造物)耐震診断・耐震補強の手引」(平成29年3月改訂 文化庁)等を踏まえるとともに、当該手引において示されている「文化財建造物の耐震補強の原則」に留意し、歴史的空間・景観等に配慮することとします。
- 構造材の樹種については、原則として国産ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa*)とし、うち向拝柱にはイヌマキ(チャーギ)を、小屋丸太梁にはオキナワウラジロガシを使用します。

### 〈その他〉

- 平面計画については前回復元で再現した往時の間取り等を基本的に踏襲する。また、公園利用の観点から、正殿に接続する建物の整備状況に応じて仮設の階段やエレベーター等を設け、上下階移動の動線を確保します。

令和4年度は、御庭エリア(有料区域)において工事前仮設物の設置や正殿造構の保護等を行い、木材倉庫・加工場、原寸場を整備しました。令和5年度には、素屋根が完成し、正殿本体の本格的な復元工事が始まりました。令和5年9月に柱の建方を開始し、同年12月には軸組建方が完成しました。



正殿工事 軸組建方完成(令和5年12月)

## 段階的公開

原寸場・素屋根には、窓ガラス越しに工事や作業の様子を目の前で見ることができる見学エリアを設けており、安全性を確保しながら復元工事の一般公開を行っています。

また、素屋根見学エリアでは、復元工事の理解の助けとなるよう、各階から見られる工事進捗に応じた解説パネルや映像を展示し、実際に触れることのできる工事材料等の実物展示を設けています。

他にも、首里城復興展示室での寄附金活用にかかる紹介展示や世評殿での大型映像上映を行っており、正殿復元に向けた取組を紹介しています。



原寸場見学エリア

素屋根見学エリア



首里城復興展示室(沖縄県設置)

素屋根見学エリア(展示)

## 地域振興・観光振興への貢献

首里城復元に向けた参加型ボランティアや復興関連イベントの開催を通じて、沖縄の地域振興・観光振興への貢献へ努めています。参加型ボランティアとして、火災で破損した赤瓦を細かく砕いて新たな赤瓦の原料を作る「首里城正殿赤瓦のシャモット製作ボランティア」等を実施し、特別イベントとして、宮大工から伝統技術を学ぶことのできる体験イベント等を実施しています。



シャモット製作ボランティア

宮大工体験(かんながけ)

## 首里城復元における人材育成

令和4年11月22日、沖縄総合事務局・沖縄県・沖縄美ら島財団・沖縄県立芸術大学で「首里城復元における技術継承・人材育成に係る連携協定」を結びました。

沖縄総合事務局が首里城復元に係る人材育成の全体調整等を担いながら、4者が連携し技術継承・人材育成の取組を実施しています。首里城正殿復元工事を担当する施工会社により若手人材へのOJTを通じた指導を行ったり、講義や見学等の機会を積極的に設けることで、将来に向けた技術者の確保を図ります。



熟練技術者による指導